

古河電工

古河電気工業株式会社

2024年3月期第1四半期決算説明会

2023年8月3日

[登壇者]

1名

取締役 兼 執行役員常務 財務本部長

福永 彰宏 (以下、福永)

本日のアジェンダ

23年度Q1決算および23年度予想

- 23年度Q1決算のポイント
- 23年度Q1実績-要約P/L
- 23年度Q1実績-売上高の増減要因
- 23年度Q1実績-営業利益の増減要因
- 23年度Q1実績-セグメント別売上高・営業利益
- 23年度通期予想について
- セグメント別売上高・営業利益
- 23年度Q1実績-要約B/S
- 設備投資額・減価償却費・研究開発費

Appendix

福永：福永でございます。本日はよろしくお願ひいたします。私より、2023年度第1四半期決算の状況についてご説明いたします。

23年度Q1決算のポイント

■米州の情報通信および世界的なエレクトロニクス関連需要の減少により前年同期比で減収減益

(単位: 億円、円/kg、円/米ドル)	*FY22_Q1	FY23_Q1	前年比	
	a	b	b-a	
売上高	2,603	2,464	▲ 139	自動車関連は回復傾向だが、米州の情報通信や機能製品（半導体製造用テープ、HDD用アルミブランク材など）の在庫調整および需要減 【増収】電装エレクトロニクス（自動車部品・電池）【減収】インフラ、機能製品
営業利益	11	▲ 28	▲ 38	売上減少 【増益】電装エレクトロニクス（自動車部品・電池）【減益】インフラ、機能製品
経常利益	77	▲ 18	▲ 95	持分法による投資利益および為替差益の減少、支払利息増加
親会社株主に 帰属する 当期純利益	53	▲ 17	▲ 70	営業利益および経常利益の減少
銅建値 平均	1,286	1,219	▲ 67	
為替 平均	130	137	+8	

*例UACJ（持分法適用関連会社）の国際財務報告基準（IFRS）任意適用開始によりFY22実績値をリステイト（Appendix参照）

All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2023

5

お手元の資料、5ページをご覧ください。こちらが23年度Q1決算のポイントとなっております。

米州の情報通信、および世界的なエレクトロニクス関連需要の減少により、前年同期比で減収減益の決算となりました。

左側の表の真ん中のところ、青字のところですけれども、こちらが今年度Q1決算の実績でございます。売上高2,464億円、営業利益マイナス28億円、経常利益マイナス18億円、親会社株主に帰属する当期純利益マイナス17億円となりました。

売上高に関しましては、自動車関連は回復傾向でございますけれども、米州の情報通信や機能製品の在庫調整、および需要減の影響を受けております。営業利益も売上減少の影響が大きく、マイナスという結果となりました。

経常利益につきましては、持分法投資利益の減少。こちらはUACJ社のマイナスが大半を占めております。また為替差益ですけれども、益側ではございますけれども、昨年の急激な円安方向に向かったときに比べると緩やかな円安だということで、減少という結果になっております。支払利息に関しましては、特に外貨建ての金利上昇という影響からマイナスでございます。

親会社株主に帰属する当期純利益に関しましては、特別利益の増加、税金の減少はございましたけれども、全体ではほぼ経常利益並みの数字での着地となっております。

23年度Q1実績-要約P/L

■通期予想は据え置き

(単位：億円、円/kg、円/米ドル)	*FY22_Q1	FY23_Q1	前年比	主な増減内訳 (Q1)
	a	b	b-a	
売上高	2,603	2,464	▲ 139	7ページ参照
営業利益	11	▲ 28	▲ 38	8ページ参照
(率)	0.4%	▲ 1.1%	▲ 1.5	
持分法投資損益	37	10	▲ 26	
為替損益	30	12	▲ 18	
経常利益	77	▲ 18	▲ 95	
(率)	3.0%	▲ 0.7%	▲ 3.7	
特別損益	4	26	+22	・特別利益：+39 (9→48)
法人税等	▲ 29	▲ 24	+5	・特別損失：▲17 (▲5→▲22)
非支配株主に帰属する 当期純利益	0	▲ 1	▲ 1	
親会社株主に帰属する 当期純利益	53	▲ 17	▲ 70	
(率)	2.0%	▲ 0.7%	▲ 2.7	
銅建値 平均	1,286	1,219	▲67	
為替 平均	130	137	+8	

《2023/5/11公表》

FY22	FY23 予想	前年比
10,663	11,000	+337
154	240	+86
1.4%	2.2%	+0.7
36	-	-
17	-	-
173	230	+57
1.6%	2.1%	+0.5
107	▲ 5	▲ 112
▲ 103	-	-
▲ 17	-	-
159	130	▲ 29
1.5%	1.2%	▲ 0.3
1,209	1,180	▲ 29
135	130	▲ 5

*例)UACJ (持分法適用関連会社) の国際財務報告基準 (IFRS) 任意適用開始によりFY22実績値をリステイト (Appendix参照)

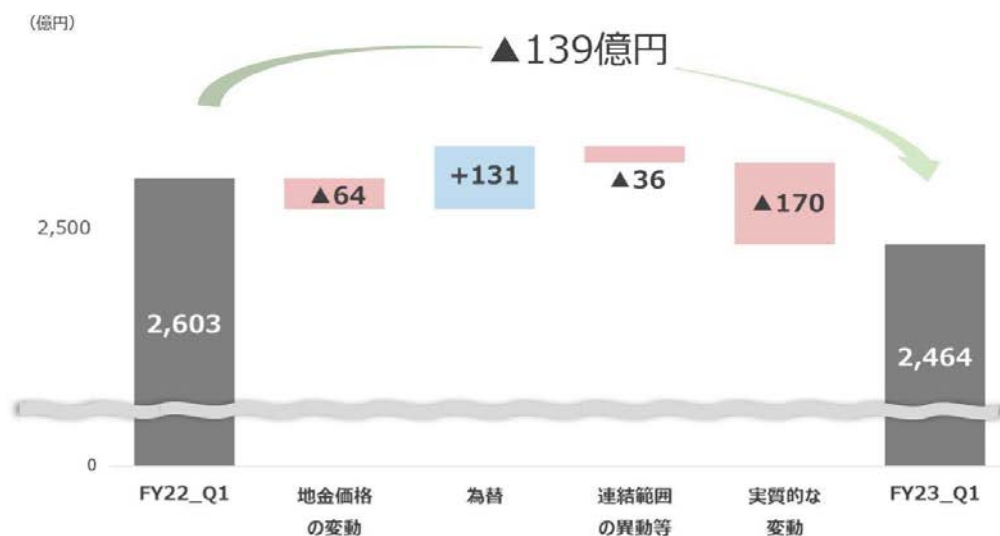
All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2023

6

続いて6ページをご覧ください。通年予想は据え置きとさせていただきます。この内容につきましては、後ほど別のページで説明させていただきます。

また売上高、営業利益に関しましても次ページ以降、ウォーターフォールでご説明いたします。

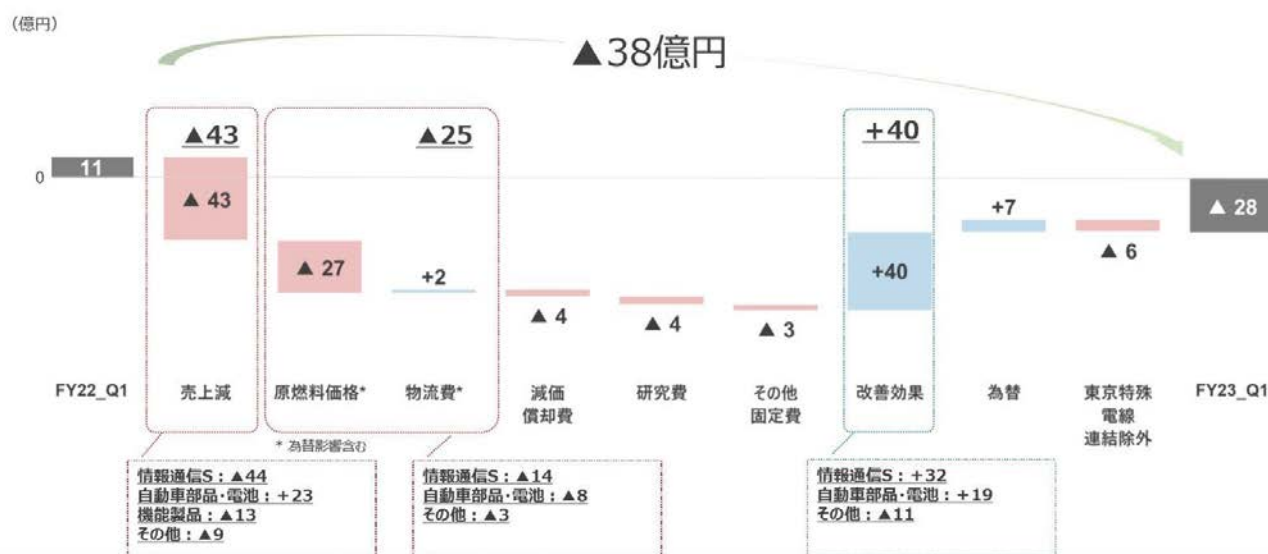
23年度Q1実績-売上高の増減要因



それでは、7ページをご覧ください。こちらが23年度Q1実績の売上高増減のウォーターフォール分析でございます。

前年同期からは139億円の減収。地金価格に関しましては銅価の下落で64億円のマイナス。一方、為替については円安方向ということで131億円の増収。連結範囲の異動の内容は、東京特殊電線の連結除外という影響でございます。実質的な変動がマイナス170億円で、結果として2,464億円という売上となりました。

23年度Q1実績-営業利益の増減要因



All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2023

8

続いて、8 ページをご覧ください。こちらが営業利益の増減要因でございます。

前のページで申し上げました売上減少の影響が大きく、マイナス 43 億円の影響です。原燃料価格の上昇も、前年度比ではマイナス 27 億円。物流費に関しましてはコンテナ輸送等、落ち着きを取り戻しているところ。単価の下落もありまして、ほぼニュートラルに近い状況には戻ってきたところでございます。こちらで合わせてマイナス 25 億円。

こういったマイナス要因に対して改善効果、価格の適正化であったり生産性改善であったりになりますけれども、こちらでプラス 40 億円となっています。原燃料価格の上昇等のカバーはできておりますけれども、売上減少に対しては十分カバーし切れず、全体ではマイナス 38 億円、前年度からのマイナスとなりました。

23年度Q1実績-セグメント別売上高・営業利益

■通期予想は据え置き

(単位：億円)	売上高			営業利益		
	FY22_Q1	FY23_Q1	前年比	FY22_Q1	FY23_Q1	前年比
	a	b	b-a	c	d	d-c
インフラ	770	687	▲ 83	4	▲ 32	▲ 36
情報通信ソリューション	539	468	▲ 71	8	▲ 17	▲ 25
エネルギーインフラ	231	219	▲ 12	▲ 3	▲ 15	▲ 11
電装エレクトロニクス	1,477	1,497	+20	▲ 13	2	+15
自動車部品・電池	786	882	+96	▲ 26	1	+26
電装エレクトロニクス材料	691	615	▲ 76	13	1	▲ 11
機能製品	347	275	▲ 72	22	7	▲ 15
サービス・開発等	80	65	▲ 16	▲ 2	▲ 6	▲ 4
連結消去	▲ 71	▲ 59	+12	▲ 1	1	+1
連結合計	2,603	2,464	▲ 139	11	▲ 28	▲ 38

《2023/5/11公表》

売上高			営業利益		
FY22	FY23 予想	前年比	FY22	FY23 予想	前年比
3,239	3,350	+111	86	100	+14
2,176	2,200	+24	65	80	+15
1,063	1,150	+87	21	20	▲ 1
6,103	6,450	+347	47	125	+78
3,374	3,750	+376	15	85	+70
2,730	2,700	▲ 30	32	40	+8
1,265	1,250	▲ 15	42	40	▲ 2
317	300	▲ 17	▲ 21	▲ 25	▲ 4
▲ 261	▲ 350	▲ 89	1	0	▲ 1
10,663	11,000	+337	154	240	+86

9 ページでございますけれども、こちらはセグメント別の第 1 クォーターの実績、および通年の予想でございます。

予想に関しましては据え置きとしておりますので、5 月 11 日に公表した数字そのままとなっております。

セグメント別の実績につきましては、後ほどのページでご説明いたします。

23年度通期予想について

- 情報通信ソリューション事業は下振れを見込むが、回復傾向が見え始めた自動車部品・電池、機能製品事業等でカバーを図る
- 現時点では通期予想は据え置き

23年度営業利益

単位：億円 セグメント	サブセグメント	*FY23 予想	営業利益進捗見込み		
			Q1	Q2	下期
インフラ	情報通信ソリューション	80	▲17	Q1並み	精査中
	エネルギーインフラ	20	▲15	Q1並み	Q3から回復
電装 エレクトロニクス	自動車部品・電池	85	1	改善	さらに改善
	電装エレクトロニクス材料	40	1	Q1並み	Q3から回復
機能製品		40	7	Q1並み	Q3から回復

*2023/5/11公表

All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2023

10

続いて 10 ページ、通期予想の全体感を持った見立てでございます。

情報通信ソリューションは足元での業績悪化、下振れという状況から、年度でも非常に厳しい状況を見込んでおります。一方で回復傾向が見え始めている、あるいは顕著である自動車部品・電池、機能製品事業については上振れ傾向ということで、情報通信のマイナスを自動車部品・電池、機能製品事業でカバーを図っていくことで、現時点では通期予想は据え置いています。

Q1 の結果は既にお示しているとおりですけれども、Q2 につきましてもインフラ関係は厳しい状況が続く見立てです。

電装エレクトロニクス関係ですと、自動車部品・電池は Q2 にかけてはかなり改善を見込んでおります。電装エレクトロニクス材料は改善は Q3 からということもございまして、Q2 に関しては Q1 並みを見込んでいます。

機能製品に関しましては、Q2 も Q1 並みで見込んでおりますけれども、こちらも Q3 からの回復を見込んでいます。自動車部品・電池に関しましては、下期にかけてさらなる改善を見込んでいます。

一方で情報通信ソリューションでございますけれども、市場の回復の時期が想定より長引いているのが実態でございます。早くても来年 24 年 1 月以降の回復となりますけれども、その回復状況を見きわめていくことで、Q2 の決算を開示する際にどのような動きになるかは、個別のセグメント別に公表させていただければと思います。

FY23_Q1

減収減益

	FY23_Q1		前年比
	FY22_Q1	FY23_Q1	
(単位: 億円)	a	b	b-a
売上高	539	468	▲ 71
営業利益	8	▲ 17	▲ 25

【増減益要因】

- (-) 北米の顧客の在庫調整、プロジェクト遅延等による減収
- (-) ブラジル通信事業者の投資抑制による減収
- (-) 原燃料価格の上昇
- (+) 改善効果
※販売価格適正化、生産性改善、高付加価値製品拡販

状況認識

ファイバ・ケーブル&光デバイス製品

FY23_Q1~

米州需要の急速な減少

顧客の在庫過多
工事遅延
顧客の投資抑制

精査中

今後の対応

- ・ 高付加価値製品ラインアップ拡充と顧客層の拡大
- ・ 固定費の削減
- ・ 操業にあわせた人員配置
- ・ 需要回復時の即応体制
- ・ 在庫水準・販売価格の適正化

11 ページ、ご覧ください。情報通信ソリューションの状況でございます。

こちらにつきましては一部ご説明はしておりますけれども、原燃料価格の上昇等に関しましては改善効果でカバーできております。それを上回る改善効果はあったんですけれども、北米およびブラジルの減収の影響が非常に大きく、カバーし切れずといった結果で、前年からマイナス 25 億円の営業利益のマイナス 17 億円、赤字の着地となってしまいました。

状況認識でございますけれども、この四半期から米州、北中南米の需要が急速に減少しております。北米につきましてはインフレの状況からお客様が投資を見合わせている、抑制していること。人材不足による工事の遅延ということ。また顧客の滞留在庫解消が遅れていること、この要因から非常に減速している状況です。

こちらの回復時期を、今後見きわめていくところになります。長期的には必ず伸びてくる市場ではありますけれども、戻る時期がいつになるかがポイントとなっております。

今後の対応といたしましては、高付加価値製品のラインナップ拡充、顧客層の拡大を引き続き進めていくこともございますが、足元では非常に厳しい状況であるということで、固定費の削減、操業に合わせた人員配置を進めてまいります。一方で需要回復時に即応体制が必要になります。このバランスをとりながら、今後の対応を進めてまいります。また在庫水準、価格適正化も引き続き進めてまいります。

FY23_Q1

減収減益

(単位：億円)	FY22_Q1	FY23_Q1	前年比
	a	b	b-a
売上高	231	219	▲ 12
営業利益	▲ 3	▲ 15	▲ 11

【増減益要因】

- (-) 中国景気回復鈍化による顧客工事延期の継続
- (-) ケーブル製造能力増強投資に伴う減価償却費増
- (-) 製品補償費用の発生
- (+) アルミCV等の機能線は堅調

状況認識

FY23_Q1

中国市場の
回復遅れ

Q3~

緩やかに回復

海外海底線、国内超高圧地中線ともに
例年以上に案件は下期集中

機能線は堅調

今後の対応

- ・ ターゲット市場（国内超高圧地中線、再エネ関連）における利益重視の受注と販売価格の適正化
- ・ ケーブル製造および工事施工能力の増強
- ・ マーケティング活動の推進（アルミCV、送配電部品）

続いて、エネルギーインフラでございます。12 ページをご覧ください。

エネルギーインフラにつきましては、全体の業績で申し上げますとアルミ CV 等の機能線はある程度堅調で、プラス方向にはあるんですけれども、一方で中国の景気の回復鈍化ということで、顧客工事遅延、延期ということが続いております。またケーブル製造能力増強ということで設備投資を行っておりますので、減価償却費等の増加もございます。

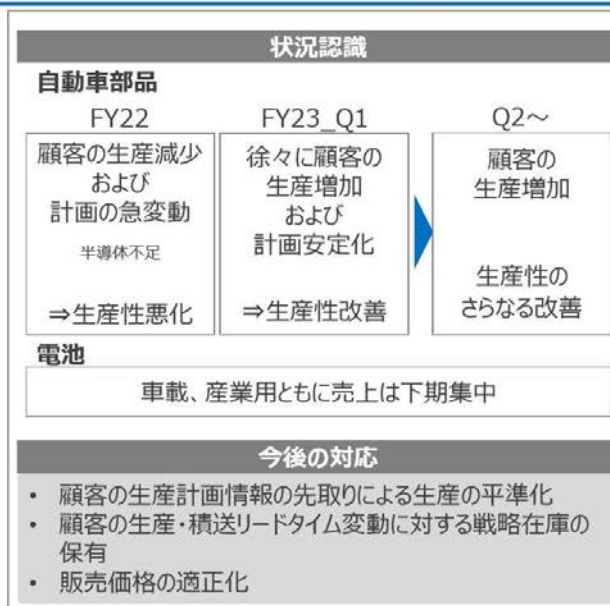
また第 1 四半期で、過去に納入した案件にかかわる製品補償費用の発生がございました。このマイナスがございまして、全体では前年度比ではマイナス 11 億円のマイナス 15 億円という結果となっております。

足元の状況、今後の見通しですけれども、足元では Q1、Q2 と中国市場の回復の遅れがございまして。一方で Q3 以降、緩やかな回復を見込んでおります。また海外の海底線、国内超高圧地中線ともに、案件は全て見えているものは多数ございますけれども、例年以上に案件が下期集中となっていることで、上期は非常に厳しい状況。下期に関してはこの案件にしっかり対応していくことで、全体では当初の予想並みという数字の着地を見込んでおります。また機能線に関しましては、年間を通して堅調に推移すると見込んでおります。

FY23_Q1		増収増益	
(単位: 億円)	FY22_Q1	FY23_Q1	前年比
	a	b	b-a
売上高	786	882	+96
営業利益	▲ 26	1	+26

【増減益要因】

- (+) コロナ影響や顧客の半導体不足の緩和による増収
- (+) 改善効果
 - ※生産性改善、販売価格の適正化、エア費削減
- (-) 原燃料価格の上昇
- (-) 製品補償費用の発生
- (-) 中国市場の日系OEM向けの低迷



次 13 ページ、自動車部品・電池でございます。

自動車部品・電池に関しましては、マイナス要因としては昨年度からの原燃料価格の上昇がございます。また第 1 四半期において、製品補償費用ということで引当計上したものがございます。また中国市場の日系の OEM メーカーが低調であることから、マイナス要因があるところでございます。

一方でコロナ影響や顧客の半導体不足緩和により、生産が安定化してきている、さらには生産も増加してきていることによる増収。また生産性改善、昨年かなり多額に発生したエア費が削減できたこと。また価格適正化が引き続き進んでおること、この要因でプラスで取り返して、前年同期比ではプラス 26 億円の 1 億円で、わずかではございますけれどもプラスの着地となりました。

状況認識でございますが、昨年度はご案内のとおりですが、顧客の生産減少、さらには計画が毎月のように大きく変動していくことから、生産性悪化、あるいは原価率の高止まりが起きておりました。一方でこの足元の状況としては、顧客の生産量も増加してきております。また計画もほぼ想定どおり安定化してきていることから、生産性の改善がかなり進んできております。

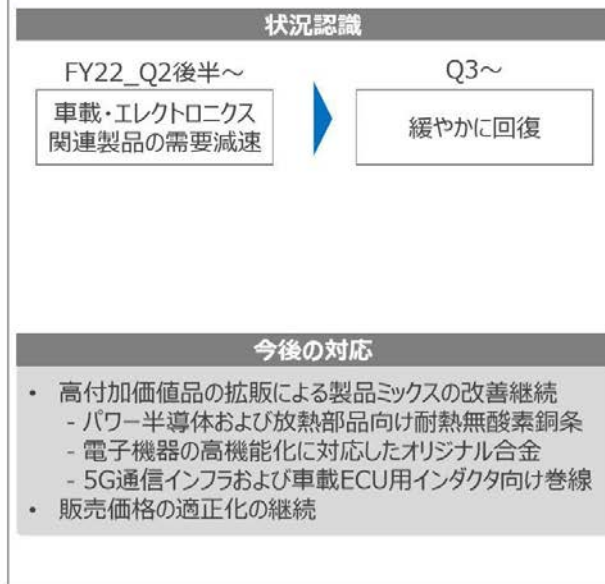
Q2 以降も顧客の生産増加が見込まれますし、生産性改善に関しましてはこの改善がさらに進んでいくと見込んでおります。今後の市場の伸びにしっかりと追随していくことで、Q2 以降、自動車部品に関しては改善を見込んでおります。

電池につきましては、もともと車載・産業用ともに売上は下期集中ということがございますので、下期にかけて業績そのものは改善してまいります。そういう状況でございます。

FY23_Q1		減収減益	
(単位: 億円)	FY22_Q1	FY23_Q1	前年比
	a	b	b-a
売上高	691	615	▲ 76
営業利益	13	1	▲ 11

【増減益要因】

- (-) 車載・エレクトロニクス関連の需要減
- (+) 販売価格の適正化



14 ページでございます。電装エレクトロニクス材料です。

電装エレクトロニクス材料に関しましては、販売価格の適正化を引き続き進めております。一方で車載・エレクトロニクス関連の需要減という影響から、マイナス 11 億円、1 億円のプラスにとどまったのが Q1 決算の状況でございます。

足元は右上にも示した通り、繰り返しにはなりますが、車載・エレクトロニクスの需要減が Q3 以降、緩やかに回復することを見えています。この事業はサプライチェーン上の上流にある事業のため、市場の動きから遅れて連動するところがございます。車載関係、自動車関係は市場は戻ってきているところがございますが、こちらが徐々にこの事業にも効果を発現するとは見えています。

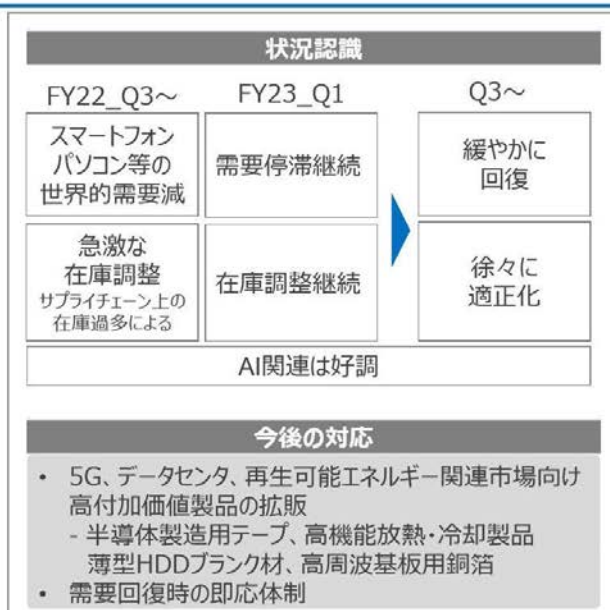
FY23_Q1		減収減益		
(単位：億円)	FY22_Q1	*FY22_Q1 (特殊要因除く)	FY23_Q1	前年比
	a	a'	b	b-a'
売上高	347	311	275	▲ 36
営業利益	22	16	7	▲ 9

*特殊要因＝東京特殊電線㈱の連結除外影響

【増減益要因】

(-) スマートフォン・パソコン・データセンタ向け製品の需要減、サプライチェーン上の在庫調整
※特に前年度の需要が旺盛だったHDD用アルミブランク材の減収

(+) AI関連の需要好調



15 ページ、機能製品でございます。

機能製品につきましては、前年度比でマイナス 9 億円の 7 億円のプラスでございます。22 年度の 4 クォーターのマイナス 10 億円からは、かなり回復してきているところではございます。

前年同期比の要因としてはスマートフォン、パソコン、データセンタ向けの製品の需要減。特に昨年度下期以降の需要減の影響がまだ残っていること。サプライチェーン上の在庫調整もまだ続いている状況でございます。

特に昨年同期、第 1 クォーターは需要が非常に旺盛で、ハードディスクドライブ用アルミブランク材は作り切れないぐらいの需要、あるいは受注をいただいていた状況もありました。こちらが今、在庫調整局面に入っていることで、大幅に減っているところが影響としてはかなり大きく出ています。

一方で、昨年度の後半から盛り上がってきておりましたけれども、AI 関連の需要が非常に好調に推移しております。こちらは年度を通してさらに伸びていく見立てでございます。われわれの商品では 3D ペーパーチャンバーになりますけれども、こちらが非常に需要が強い。実際の売上も好調に伸びている状況でございます。

状況認識につきましては、先ほど左側の内容を説明する中で既にお話しておりましたけれども、昨年度の後半から世界的に需要減、サプライチェーン上の在庫過多による在庫調整、こちらが急激に表れてきた。徐々に改善傾向にはあるんですけれども、まだ完全には戻り切っていない状況でございます。在庫調整もまだ続いている状況です。こちらについては下期以降、緩やかに回復する、あるいは徐々に適正化することを見込んでいます。

また AI 関連については生成 AI 関連になりますけれども、引き続き好調ということで、年度を通してプラスに振れると見込んでおるところでございます。

23年度Q1実績-要約B/S

(単位：億円)	*FY22_Q4末 a	FY23_Q1末 b	増減 b-a
流動資産	4,868	5,093	+225
現金及び預金	474	558	+84
受取手形、売掛金及び契約資産	2,296	2,278	▲ 18
棚卸資産計	1,723	1,864	+141
固定資産	4,466	4,522	+56
有形固定資産	2,693	2,741	+48
無形固定資産	202	201	▲ 1
投資その他の資産	1,571	1,581	+9
資産合計	9,335	9,616	+281
流動負債	3,810	4,007	+196
固定負債	2,233	2,270	+37
負債合計	6,044	6,277	+233
株主資本	2,835	2,763	▲ 71
その他の包括利益累計額	182	300	+118
非支配株主持分	274	275	+0
純資産合計	3,291	3,338	+47
負債・純資産合計	9,335	9,616	+281
有利子負債	3,238	3,425	+187
自己資本比率	32.3%	31.9%	▲ 0.4
NET D/Eレシオ	0.9	0.9	+0.0

*例UACJ（持分法適用関連会社）の国際財務報告基準（IFRS）任意適用開始により、FY22実績値をリステイト（Appendix参照）

All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2023

棚卸資産

141億円 増加（為替・銅価の影響：+60億円を含む）

戦略在庫（半導体不足や海上輸送リードタイム長期化等の事業環境変化に備えた在庫の確保）
将来売上計上予定のプロジェクト・工的事業等
売上急増減等の外的要因

有形無形固定資産

47億円 増加

設備投資・減価償却費の影響：0億円
為替影響：+71億円
連結除外影響：▲30億円

資産合計

281億円 増加

為替影響：+215億円
新規連結の影響：+4億円

その他包括利益

118億円 増加

為替換算調整勘定：+111億円（円安影響）

NET有利子負債

103億円 増加（2,764億円→2,867億円）

続いて 16 ページ、バランスシートの状況でございます。

真ん中の青字のところ資産合計となっております。281 億円の増加でございます。為替影響が 215 億円、新規連結の影響が 4 億円に加えて、銅価の影響も 10 億円程度でございます。

内容を見てまいりますと、やはり棚卸資産が増加しております。141 億円の増加ですが、ここには為替・銅価の影響が 60 億円含まれてございます。

また戦略在庫ということで、急速に需要が戻ってきている部分もございまして。特に自動車関係、かなり需要が戻って生産が伸びてきている状況下で、一方で戦略在庫ということで輸送リードタイムの長期化等に向けた対策ということで、60 億円を確保しています。

また将来に計上予定のプロジェクト。電力関係であったり、ブロードバンド関係になりますけれども、こちらで 10 億円。一方で売上が急減した影響で 10 億円ほど、消化しきれなかった在庫がございまして。こちらは第 2 四半期以降で解消してまいります。

またその他包括利益でございますけれども、こちらは昨年と同様の傾向ではございますが、円安影響ということで、為替換算調整勘定が 111 億円のプラスという結果となっております。

有利子負債に関しましては棚卸資産の増加もございまして、103 億円の増加という結果となりました。

■通期予想は据え置き

(単位：億円)	FY22 Q1	FY23 Q1	前年比	*FY23 予想	前年比
	a	b	b-a		
設備投資額	64	85	+22	460	+22
減価償却費	92	95	* +2	400	+9
研究開発費	59	64	+4	270	+37

*東京特殊電線(株)連結除外の影響を除くと+4

*2023/5/11公表

17 ページ、設備投資・減価償却費・研究開発費でございます。

こちらにつきましては、現状の市場環境を見据えながら見直していくところは見直してまいりますけれども、現時点では年度の予想そのものは据え置きとさせていただきます。

私からの説明は以上となります。ご清聴ありがとうございました。